

[参考事項]

新技術名：ブドウの枝幹害虫クビアカスカシバの被害実態について（平成21年）

研究機関名 果樹試験場 特産果樹部

担当者 小松美千代、船山瑞樹、他1名

[要約]

横手市においてブドウ樹にクビアカスカシバの被害が広域に確認された。幼虫の食入が多い部位は、主幹では地上80cm以下、枝では主幹から2.5m以内の主幹に近い部位である。また、過去に食害された部位周縁に被害が多い。

[ねらい]

近年、ブドウの主産地である横手市において、クビアカスカシバ幼虫による枝幹の被害が増加しているが、本種の被害実態の詳細は明らかになってない。

そこで、今後の防除法確立の参考とするため、被害実態調査を行った。

[技術の内容・特徴]

1. 平成21年8月下旬～9月初旬に、横手市6地域の13園地において被害調査を行った。また、4園地において8月下旬に食入部位を調査した。
2. 調査した全6地域の13園地中12園地において被害が確認された（表1）。
3. 調査品種の‘巨峰’、‘キャンベル・アーリー’、‘ナイアガラ’、‘スチューベン’、‘藤稔’、‘安芸クイーン’、‘さがみ’、‘ピオーネ’、‘ノースレッド’、さらに‘ポートランド’は、いずれも被害が認められる。
4. 被害部からは虫糞が排出し、虫糞と粗皮を除くと、樹皮と木質部が浅く溝状に食害されている（写真1）。また、食害の範囲が狭い軽度の被害から、輪状または面状に食害部が拡大した重度の被害まで確認される。
5. 幼虫の食入部位は、主幹では地上80cm以下に多く（図1）、若木および成木のいずれでもみられる。枝では主幹から2.5m以内の主幹に近い位置に多く（図2）、主枝や亜主枝の他に3～4年枝においてもみられる。また、過去にクビアカスカシバによって食害された部位周縁のカルス形成部に被害が多い傾向がある（写真2）。
6. 幼虫は複数が一箇所または近くに集中していることが多い。

[普及対象範囲]

県内ブドウ栽培地域

[普及・参考上の留意事項]

1. 平成22年3月現在、本種に対する登録薬剤はなく、被害回避のため幼虫を早期発見し捕殺することが重要である。本調査結果をもとに食入部位の早期発見に努める。
2. 複数の幼虫が一箇所または近くに集中していることが多いため、捕殺後も随時残存虫を確認する。

[具体的なデータ等]

表1 横手市における被害状況（平成21年8月23日～9月2日）

調査地域	調査地点	調査樹数	被害率 (%)
平鹿町	醍醐荒処	20	45.0
	上吉田間内①	21	33.3
	上吉田間内②	20	15.0
赤坂	城野岡	20	30.0
金沢中野	長持山	20	80.0
山内土湊	皿木①	21	42.9
	皿木②	20	65.0
	羽根山	20	20.0
大沢	嶽鼻	20	65.0
	上庭当田	20	30.0
	佐賀会①	15	6.7
十文字町	佐賀会②	10	0
	鼎柳原	19	26.3
合計		246	37.4



写真1 幼虫による食害状況
（虫糞及び粗皮除去後）

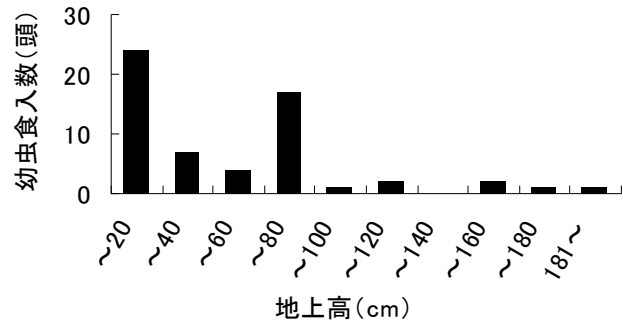


図1 主幹における地上高別幼虫食入数

※平成21年8月23～25日に4園地で調査
※幼虫食入数は主幹に被害のあった25樹の合計

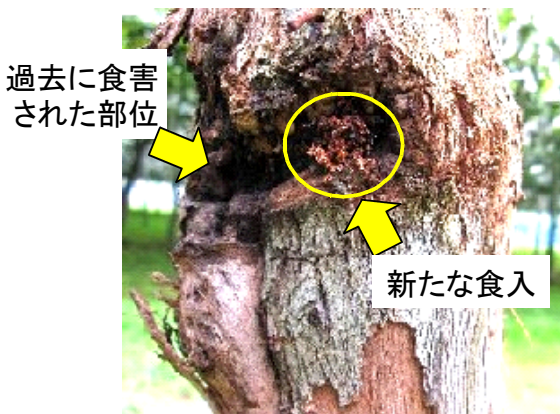


写真2 過去に食害された部位周囲の
カルス形成部にみられた新たな食入

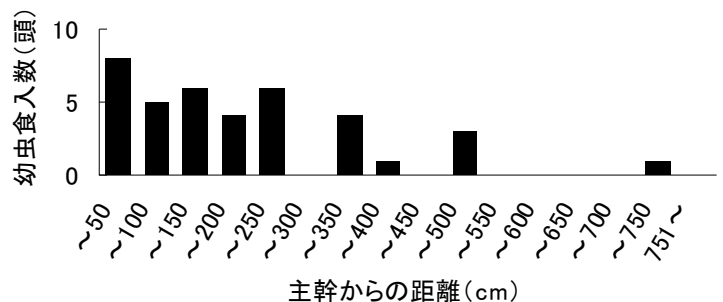


図2 枝における主幹からの距離別幼虫食入数

※平成21年8月23～25日に4園地で調査
※幼虫食入数は枝に被害のあった11樹の合計

[発表文献等]

北日本病害虫研究会報第61号 投稿中